

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 15 日

1. 職名・氏名 教授・森川 峰幸

2. 学位 学位 準学士、専門分野 _____、授与機関 _____、授与年 _____

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境・文化概論（通年 4 単位）1 年生
②内容・ねらい 食べることと農業は本来密接につながっており（食農）、それを取り巻く環境・文化はこの食農と切り離せない存在である。それが本来の「農」であり、「農」とは総合知であることを実務経験者から学び、自分の中で「農」のとらえ方を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎に感じたことの発表と意見交換の時間を設け、学生の理解度を高めた。 ・学期末ごとに面談にて理解程度の把握と理解の促進を行うとともに、グループディスカッションを通して、自分の考えを深める力と表現する力を高めた。学年末には「農」を取り巻くものについて考える意見論文を提出させることで、1 年間学んだ総合知としての「農」の考えを明確にさせた。 ・外部講師を招いての授業では、講師との事前打ち合わせを密にして、必要な資料を事前配布するなど、より講義内容の理解が深まるようにした。 【ゲストスピーカー 16 人】 【フィールドワーク 10 件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境実習 I（通年 2 単位）1 年生
②内容・ねらい 福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎に、一連の作業工程のすべてを体験できるよう、班編成ならびにタイムスケジュールを考慮した。また、日誌作成により、体験工程の理解度を深めた。 ・外部講師を招いての授業では、講師との事前打ち合わせを密にして、必要な資料を事前配布するなど、より講義内容の理解が深まるようにした。 ・学期末に「農」に学び、自らがどう生きたいかについて、グループディスカッションを行い、実習内容について、理解を深めた。 【ゲストスピーカー 33 人】 【フィールドワーク 27 件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

・食農環境演習Ⅰ（通年４単位）１年生

②内容・ねらい

食農環境実習Ⅰで体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

・演習毎にレポートを提出させるとともに、学期末には面談による指導を行い、理解程度の把握と理解の促進を行った。

・学期末に「農」に学び、自らがどう生きたいかについて、グループディスカッションを行い、演習内容について、理解を深めた。

【ゲストスピーカー ３３人】

【フィールドワーク ２７件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

・総合農学（通年８単位）１年生

② 内容・ねらい

キャンパス内の圃場で、年間を通じて実際に農作物を栽培し、収穫、加工、消費までを体験する中で、栽培技術、農作業機械操作技術、加工・調理技術、簿記技術を身に付けるとともに、農業と気象、土壌環境、他の生物との関係性を観察、理解し、実験計画法、土壌分析法、雑草・病害虫被害調査方法などを学習する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

・授業毎に作業日誌を提出させ、実習内容の進捗を把握することで、学生の学習補助を行った。
・必要に応じて、学生自身に作業マニュアルを作成させ、作業工程をまとめさせることにより、理解度を深めた。

・学年末には MyFarm 発表会を実施するとともに、報告書を提出させ、作業計画や作業手順の効率性と有効性について検証させた。

【ゲストスピーカー ６人】

【フィールドワーク ２４件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

・農業インターンシップⅠ（前期集中 １単位）１年生、２年生

② 内容・ねらい

夏季休暇中に農繁期となる農作物生産現場にて実践的な研修を行う。複数のコースを設け、学生の希望する分野をより深く体験する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

・特任講師を中心に、農業経営の特徴等を記載した資料を作成・説明し、学生が希望する分野を選択できるよう工夫した。

・インターンシップ前には、実施要領を作成し、マナーや作業安全等の注意事項を明確に伝えるなど、就業体験の効果が高まるよう工夫した。

・修了後は、体験報告書を作成させるとともに、受入農家等を参集した「インターンシップ報告会」を企画し、研修内容の理解を深めた。

【ゲストスピーカー ２１人】

【フィールドワーク ２１件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境実習Ⅱ（通年 2 単位） 2 年生 ② 内容・ねらい 福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。 ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎に、一連の作業工程のすべてを体験できるよう、班編成ならびにタイムスケジュールを考慮した。また、日誌作成により、体験工程の理解度を深めた。 ・外部講師を招いての授業では、「農」の現場で働くプロフェッショナルとの意見交換の時間を設け、学生自身の生き方について深く考えるよう工夫した。 ・学期末に「農」に学び、自らがどう生きたいかについて、発表させ、グループディスカッションを通して、自身の考えを深めた。 【ゲストスピーカー 3 4 人】 【フィールドワーク 2 2 件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境演習Ⅱ（通年 4 単位） 2 年生 ②内容・ねらい 食農環境実習Ⅰで体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。 ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・演習毎にレポートを提出させるとともに、学期末には面談による指導を行い、理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・学期末にグループディスカッションを行い、実践したことや考えたことについて、話し合い、情報の整理能力と発信能力を高めた。 【ゲストスピーカー 3 4 人】 【フィールドワーク 2 2 件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・先端農業技術活用論（通年 2 単位） 2 年生 ② 内容・ねらい 先端的な農業技術を実践している講師をオムニバス形式で招き、現在の活用方法を学び、未来型農業の実現のために、これらの技術をどう活用するか、さらにどんな技術を求めるか議論する。 ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・外部講師との事前調整により、理論編と実践編に分けて講義を行い、技術の理解度を深める工夫をした。 ・学期末に最先端技術の活用方法について考えるグループディスカッションを行うとともに、それをもとにした意見論文を提出させ、議論を深めた。 【ゲストスピーカー 9 人】 【フィールドワーク 1 件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・農業インターンシップⅡ（前期集中 1単位）2年生
② 内容・ねらい 夏季休暇中にキャリア形成に向けた実践的な研修を行う。複数のコースを設け、学生の希望する分野をより深く体験する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・行政や公設の研究機関等の取り組み内容や特任講師の農業経営の特徴等を記載した資料を作成・説明し、学生が希望する分野を選択できるよう工夫した。 ・インターンシップ前には、実施要領を作成し、マナーや作業安全等の注意事項を明確に伝えるなど、就業体験の効果が高まるよう工夫した。 ・修了後は、体験報告書を作成させるとともに、受入農家等を参集した「インターンシップ報告会」を企画し、研修内容の理解を深めた。 【ゲストスピーカー 17人】 【フィールドワーク 17件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・地域農政論（通年 2単位）3年生
② 内容・ねらい 食料や農業、農村環境における諸問題の現状を国レベルと県・地域レベル別に理解した後に国の定めた「食料・農業・農村基本計画」と福井県の定めた「ふくい農業基本計画」を比較するとともに、農業者や消費者のニーズを捉え、地域における風土や歴史、伝統を活かした政策立案、提言の方法を学習する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・農政の主要課題・動向について、国と福井県の動きを分けて講義を行い、農業行政の必要性やあり方について理解度を深める工夫をした。 ・学期末に「みどりの食料システム戦略」実現方法について考えるグループディスカッションを行うとともに、それをもとにした意見論文を提出させ、本県農業の発展に必要な農業政策について議論を深めた。 【ゲストスピーカー 1人】 【フィールドワーク 0件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・地域森林利用論（通年 2単位）3年生
② 内容・ねらい 森林や林業、木材産業における現状や課題及び施策を国レベルと県・地域レベル別に座学と現地研修により理解深めるとともに、森林生態や林業技術、木材利用、特用林産物などに関する基礎知識を幅広く学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・農政の主要課題・動向について、国と福井県の動きを分けて講義を行い、農業行政の必要性やあり方について理解度を深める工夫をした。 ・学期末に「森林を活かした新ビジネス」や「県産材活用の意識啓発」、「人材育成」について考えるグループディスカッションを行うとともに、それをもとにした意見論文を提出させ、本県の林業や木材産業の発展に必要な政策について議論を深めた。 【ゲストスピーカー 15人】 【フィールドワーク 8件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食品加工実習（前期 1 単位） 3 年生 ② 内容・ねらい 農産物加工の基礎、食品衛生管理、6 次産業化に関する素養を身に付けるとともに、6 次産業化に関連する県内施設・企業の見学、食品加工実習を行う。 ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・加工食品について、素材の生産、製造、貯蔵方法、包装、表示などについて、各専門家を外部講師として招き、総合的に理解できるよう、カリキュラムを工夫した。 ・また、食品加工実践者を訪問し、現場体験や見学を取り入れるとともに、意見交換の時間を設けて食品加工に対する理解度がより深まるよう工夫した。 ・学期末には、製造から販売まで一貫した事業計画について、グループディスカッションを行うとともに、各学生が事業計画を作成するなど、食品加工について深く考えるよう工夫した。 【ゲストスピーカー 18 人】 【フィールドワーク 0 件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・地域農政学実験（通年 1 単位） 3 年生 ② 内容・ねらい 地域の食料・農業・農村環境における課題を解決するために実施された政策の内容やその効果について分析し、農業経営の計画づくりについて理解するとともに、政策の立案方法を学習する。 ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・演習毎にレポートを提出させるとともに、学期末には面談による指導を行い、理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・学期末にグループディスカッションを行い、実践したことや考えたことについて、話し合い、情報の整理能力と発信能力を高めた。 【ゲストスピーカー 7 人】 【フィールドワーク 0 件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・専攻演習（通年 2 単位） 4 年生 ② 内容・ねらい 専門分野に関連する国内外の学術論文の読解力を習得するとともに専門分野における知識と理解を深める。また学術論文の内容を総括し発表する能力を身に付け討論する能力を身に付ける。さらに本演習を通して卒業論文研究を進めるうえで必要となる思考力と解析力を養成する。 ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・コンピュータを活用し、文献検索技術を高めるとともに、文献等を参考に図表の作成技術を高める工夫をした。 ・文献等を読み込むとともに、その内容を発表する場を設けて、読解力と発表能力を高める工夫をした。 ・特任講師等と連携し、文献等内容と現場技術について討論する場を設けて、理解力を高める工夫をした。 【ゲストスピーカー 7 人】 【フィールドワーク 35 件】

- ① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
・卒業論文（通年8単位）4年生

② 内容・ねらい

卒業論文のテーマについて研究を計画・実施し、その成果を論文にまとめる。この過程で、研究の進め方や思考方法など、論文作成に関わる基本や実験・調査・解析の方法、情報収集のスキルを習得する。また論理的な記述力や考察力、中間発表における討論や卒業論文発表などでコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付ける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- ・適切なテーマ設定を行うために、文献調査や地域農業実態調査等を実施し、課題を整理する能力を高める工夫をした。
- ・定期的な進捗管理を実施し、その都度、研究の方向性を確認しながら論文作成を進めた。
- ・中間において、ポスター発表を行い、プレゼンテーション能力と討論力を高めた。

【ゲストスピーカー 7人】

【フィールドワーク 35件】

(2)その他の教育活動

内 容

- ・農業経営力向上に関すること
リーディングファームに対して品目の複合化の方向性について指導した。
先進農業者で組織する農業団体（福井アグリネット）の運営と活動内容について指導した。
- ・農業生産現場における伝統野菜の栽培技術に関すること
坂井地区の伝統野菜（越前白茎ごぼう）について、5月播き栽培方法について指導した。
- ・地域特産物を活用した新商品の開発に関すること
坂井北部丘陵地産ミディトマトを活用した6次産業化商品づくりについて指導した。
- ・農遊地域づくりに関すること
あわら市の観光拠点を中心に日帰り観光客を農村地域に呼び込む方法等について指導した。
あわら湯のまちエリアの活性化社会実験の実施方法について指導した。
- ・環境対策に関すること
風力発電建設にかかる森林保全の在り方について指導した

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【0 本】
② 学術論文（査読あり）	【0 本】
③ その他論文（査読なし）	【0 本】
④ 学会発表等	【0 件】
⑤ その他の公表実績	【0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
なし	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
実践総合農学会	

5. 地域・社会貢献活動

①-2 委員就任（県）

- ・ふくいローカルフードプロジェクト事務局運營業務委託事業プロポーザル審査委員長（県）
ふくいローカルフード推進組織の適性審査、2024年5月～現在に至る
- ・嶺南振興局二州農林部普及指導活動外部評価会議評価員（県）
改良指導員の活動が農業農村の活性化に資する活動か否かにかかる評価、2026年2月
- ・いちほまれ広報宣伝業務委託プロポーザル審査委員長（県）
いちほまれの情報発信等にかかる委託事業の審査、2022年4月～現在に至る
- ・緑と花を学ぶステップアップ研修運營業務委託公募型プロポーザル審査委員長（県）
県民を対象とした緑と花の研修事業にかかる実施主体の審査、2025年3月～現在に至る
- ・農ある風景写真コンテストプロポーザル審査委員長（県）
ふくいの農業農村をPRする事業主体の審査、2025年12月～現在に至る

①-3 委員就任（市町）

- ・あわら市食品加工施設等整備支援補助金審査員（市町）
6次産業化を推進するために必要なハード整備に係る事業の審査、2022年7月～現在に至る
- ・福井市第3次農業活性化プラン策定部会長（市町）
福井市の農業振興基本計画の策定、2024年7月～2025年3月

①-3 委員就任（その他公益法人等）

- ・ふくい農林水産支援センター理事（公益法人）
担い手研修、農地中間管理、新規就農者育成にかかる方針協議、2019年4月～現在に至る
- ・あわらCONNECT理事（一般社団法人）
事業方針・事業計画協議、2022年12月～現在に至る
- ・県立坂井高校マイスターハイスクール事業運営委員会委員（高校）
次世代産業人材の育成にむけた新カリキュラムの開発検討、2021年7月～現在に至る

② 国・地方公共団体等の調査受託等

- ・坂井市伝統の福井野菜普及事業
坂井市伝統野菜「越前白茎ごぼう」の調査研究およびPR活動、2024年4月～2025年3月

③（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動

- ・JA福井県五連理事
JA福井県五連の方新等協議、2023年6月～現在に至る

④ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等

事業名：クリエイティブミーティング、共催者：福井県農林水産部坂井農林総合事務所
活動内容：坂井あわら地区の地場農産物を活用した新商品の開発、農業検定づくり
2022年4月～現在に至る

⑤ 公開講座、オープンカレッジ、高校生向けの講座の開講

- ・高校講座
「日本における食料自給率の向上と今後のふくいの農業①」（2026年1月19日）：坂井高校
「日本における食料自給率の向上と今後のふくいの農業②」（2026年1月26日）：坂井高校
「日本における食料自給率の向上と今後のふくいの農業③」（2026年2月2日）：坂井高校
「日本における食料自給率の向上と今後のふくいの農業④」（2026年2月9日）：坂井高校

⑦その他

- ・福井市壮年会連絡協議会副会長 2024年4月～現在に至る
- ・中藤島まちづくり委員会 歴史文化部会長 2022年4月～2025年12月
- ・中藤島公民館運営審議会委員 2012年4月～現在に至る
- ・中藤島自治会連合会長 2026年1月～現在に至る

- ・福井テレビタイムリー福井出演、コメ価格の変動について解説、2025年4月6日
- ・福井テレビタイムリー福井出演、コメ高騰と増減反について解説、2025年5月11日
- ・九頭竜川千年用水シンポジウムにコーディネーター出演、2025年2月11日

--

6. 大学運営への参画

(1)補職
生物資源開発研究センター長 2021 年 4 月～現在に至る
(2)委員会・チーム活動
ふくい農力アップネットワーク 事務局 2021 年 4 月～現在に至る
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス (2025 年 8 月 2 日、3 日)
(4)その他、自発的活動など